

日本語要約

コレラは東南アジア、アフリカ、南米などの開発途上国を中心に未だ公衆衛生学上の大きな問題である。本論文はバングラデシュの首都ダッカにおける過去 7 年間の週別コレラ患者数が同地域の降雨量と関連があるかをポワソン回帰時系列モデルを用いて検討した。その結果、過去 8 週間の平均降雨量が 45mm 以上では 10mm 降雨量が増加するとコレラ患者数が 14% (95%信頼区間 : 10.1-18.9) 増加し、過去 16 週間の平均降雨量が 45mm 以下では 10mm 降雨量が減少すると患者数が 24% (95%信頼区間 : 10.7-38.6) 増加すると推定された。本研究の結果は、将来の気候変動に伴うコレラによる疾病負荷を推定するための根拠として使用されると同時に、気象データを用いた早期警戒警報システム構築のための基礎的資料となることが期待される。